

「教行信証」の『真実証』に基づく実相の説明（瀬川）

「教行信証」の『真実証』に 基づく実相の説明

瀬川 豊

一 昭和四十六年六月五日第二十二回學術大会に於て「実相の原語学的研究」と題して論述したが、今ここでは、それを略述することに止めて、むしろ実相の原語に基づく活動的意義を「教行信証」の「証卷」を根底として究明して見よう。実相なる原語は、大乘經典の各所に披瀝されていることは周知の如くである。しかしいづれの原語に従うにしても、その意味は、結局、同義であると云つてよい。「唯一なるもの」「一なるもの」(ekāyāna)を表示する。即ち是れ「不二而二、二而不二、円融自在故無碍³」であり又「異而不可分、一而不可同³」である。是れ大乘仏教の根本原理としての一如法界の理を顯示しているのである。換言すると、「善惡不二」、「主客一如」、「仏凡不二」、「染淨不二」、「色心不二」等の湛然の「十不二門」に基づく如来の真証（智慧）を詮釈しているのである。即ち自己を差別しない境界、有無、取捨、愛憎等の分別意識を超越して一なる境界を如実相として摺む宇宙無辺大の世界即ちこれは、仏智の世界、絶対界であつて、非有非無、非因非果の涅槃界であると同時に大乘仏教の「即」「無」「非」の「般若空相」の境界なるものである。亦是「般若空相」なる境界は、「空」がそのまゝ「相」であり、「相」がそのまゝ「空」なる世界であるが故に、「相」即ち縁起

(Pratitya samutpāda) の理法を離れては成立し得ない。故に実相（空）は、縁起の別名とも云う得るのである。縁起 (pratitya-samutpāda) と就くは⁴ Edgerton の 'Buddhist Hybrid Sanskrit Dictionary' 又 J. Takakusu の 'The Essentials of Buddhist Philosophy' を参照すべきであらう⁵。これは、現象の世界即ち宇宙万物が相依相関の關係をもつて、因縁により相互依存しながら因果の法則によつて生滅變化する色心不二の宇宙万物を、そのまゝ「真如」「実相」と觀照する般若空の境界を内含しているのである。その「実相」「法性」等なる原語には次の如きものがある。Dharmaṭā; Sarva dharma tathatā; Bhūta koṭi; Dharmasvabhāva prakṛti; tattvasya lakṣaṇa; etc.

二 然らば、「必至滅度の願」である「証卷」には、どのようにに実相の展開が為されているであらうか。それを「証卷」の最初の御文を通じて窺つて見よう。

「謹顕真実証者、乃至無為法身即是実相、実相即是法性、法性即是真如、真如即是一如、然者、弥陀如来従如来生示現報応化種々身也。」

とある如く、「真実証」なる実相の活動は、煩惱成就の凡夫、生死罪濁の群萌をして、往相回向の心行を獲しめ、即時に大乘正定聚之数に入らしめ、畢竟、必ず滅度に到らしめる働きをする。是則ち、真如実相そのものの働きであり、その実相（真実証）より来生せる阿弥陀如来の活動そのものである。これが「行卷」に來つて「真如一実の功德宝海」である大行即ち南無阿弥陀仏の「真実智慧、無為法身」となる。真に衆生救済の根本原理である。これを「行卷」偈前の文には、「誓願不可思議、実真如海」と云い、その誓願が「正信偈」

に來つて「建立無上殊勝願、超発希有大弘誓」⁹と嘆息され、真にこの願が、衆生の根機に相応するを述べて、「明如來本誓応機」¹⁰と明記されているのである。この如來の誓願不可思議力に依る「真如一実の功德宝海」¹¹が、いかに大なるものかは、凡量の分別智をもつて領解することは出来ない。一重に仏力に依るものである。故に「誓願不可思議一実真如海」¹²と云われるのである。然るに、これが「信卷」に至つて、「真如一実之信海」¹³と一味になるのである。これは如來の選択願心より発起する真如一実の深信に他ならない。「大行」の活動が、そのまゝ「大信」となり、「称名」となつて転回する「願心莊嚴の法門」¹⁴は、唯是真如一実の功德力用であり亦是淨土真宗の玄範である。この実相の意義に就いて、「論註原要」で窺うと次の如くある。

「略中一句。莫非実相也。実相者何也。真実功德相是也。真実功德相、即是本願成就十方無碍光如來耳。蓋以如來因中体実相起¹⁵以諸法平等¹⁶如実相而知¹⁷。發心等¹⁸生真実慈悲¹⁹大慈悲等²⁰故²¹得成無碍光仏。此仏即実相之全体也。」²²

これが又、弥陀超世之玄範、淨土真宗之根源である「願心莊嚴」なることを述べ、

「願心莊嚴故。願心者仏智（実相）也。仏智全性而起。全智成悲。円満悲智不二妙果。是為真実功德相（実相）矣。」²³とある。亦云く。

「本願一乘以願心為法本。此是大宗。」²⁴

と明示されてある。又この「願心莊嚴」は、法性（実相）の二諦に順ずるが故に、「不顛倒」であり、又衆生を授して畢竟、真実報土に入らしめるが故に「不虛偽」なることを顯わす。これが如來の清

淨願心即ち真実功德相の根本義である。これは一重に無量寿仏威神功德不可思議力の然らしむる所である。これを「教行信証」（真仏土卷）には、「仏以本願不可思議神力 摂令生彼、必當復以神力生其無上道心」²⁵とあり。又、「原要」には、「要之不出無量寿仏威神功德不可思議実」²⁶とある。是れ弥陀の願心を以つて性功德と為す故に、衆流必ず「功德大宝海」と一味となり、この弥陀成仏の因果が、即ち衆生往生の因果となる。これ即ち他力法門の根源、「光闡横超大誓願、報土因果顯誓願」²⁷の源泉として不滅不尽に広宣するのである。

- 1 安西廓亮著「論註原要」一六五。
- 2 「往生論註」卷下真宗聖全三三六—三三七。
- 3 湛然述「十不二門」大正四十六卷・七〇二c No. 1927。
- 4 道元「正法眼藏」一願明珠なる境。
- 5 Buddhist Hybrid S. D. by Edgerton: 'origination by dependence of one thing on another; The Essentials of B. P. p. 114 by J. Takakusu 'The causal origination (Pratītya-samutpāda) of Dharma-dhatu is thus the theory that the universe is universally co-relative, generally interdependent and mutually originating, having no single being existing independently.' 6 紀野一義「法華經の探求」八八頁。
- 7 「教行信証」真聖全一〇三。
- 8 「教行信証」真宗聖全四三。
- 9 「同卷」真宗聖全四三。
- 10 「同右」真宗聖全四四。
- 11 「論註原要」一七〇。
- 12 「論註原要」一四八。
- 13 「同右」一四八。
- 14 「教行信証」真聖全一三四。
- 15 「論註原要」一、一七一。
- 16 「正信偈」真聖全四五。